

私からみた神戸大学  
～国際化と愛校心について～

神戸大学経済経営研究所

趙 来勲

私は昨年度の全学の留学生委員、六甲台の僚友会幹事に続き、今年度は全学の国際交流委員会に入っています。また、研究所は国際コンファレンスや研究会などで年中外国研究者を招聘し続けていますので、少しでも責任を果たすために、一言書かせて頂きます。

神戸は国際的都市としては最も古く、神戸大学も大勢の留学生や外国人教員がいます。ただし、必ずしも国際化しているようには見えません。たとえば、神戸の街も神戸大学の看板も教員のネームプレートもほとんどの表示は日本語でしか書いてありません。バス停の表記も車内案内も日本語のみです。大学沿いにあるバス停のどこで降りたらいいいのか、外国からのお客さんは分からなくて困ってしまうでしょう。こうした問題は簡単に解決できるように思うのですが・・・

また、学生の大学に対する愛校心が足りないをよく聞きます。問題がどこにあるのか、少し考えてみました。勉強や授業などは、経済学のモデルでは費用、努力、不効用に入ります（もちろん習った知識をうまく使えば、所得を増やせるのですが・・・）。日本の大学はキャンパス内にはほぼ勉強の施設しかありません。学生が朝早く起きて、通勤電車に乗って満員バスに乗り換えて、あるいは六甲台を（こつこつ）歩いて登って教室に入って、費用、努力、不効用などを払って、疲れて眠くなったら六甲台を降ります。多くの運動、映画や音楽鑑賞、デート、アルバイト、食事、飲み会、友達作りなどなどは校外で行われています。サークルもありますけど、施設と時間の制限で、参加する学生はそんなに多くありません。そうすると、「大学＝負担；校外＝行楽」というイメージが作られてしまいます。そのまま卒業、就職してしまえば、大学に恩返しをする気持ちは強くならないでしょう。

アメリカの大学と比べてみたら、この違いはもっとはっきり分かってくると思います。向こうでは、まず、寮がキャンパス内かすぐ近くにあり、学生はほとんどの時間を学内で過ごします。次に、キャンパスに十分な運動施設があり、学生証をみせれば使えます。別に小さいサークルに入らなくてもOK。特に、ジムやプールは朝から夜中まで使えます。また、映画館も校内にあり、学生証を出せば、外の1/3の値段で映画が見られます。ほとんどの大学に劇場や博物館もあります。そして、20:00迄で量の制限もありますが、

ビールも売っています。このように、勉強だけではなく、運動も行楽もデートも大学内で出来る環境が充分あります。最後に、学生スポーツも盛んで、大学間での試合を皆が応援しに行きます。多くの大学にスタジアムとドームがあります。Homecoming ではかならず親に来てもらって一緒にパレードに参加して騒ぎます。このようなことを通して、アメリカの大学生は、大学を自分の一部のように強く意識し、知識を得ながら楽しい青春を過ごすことができます。そうして、卒業してから30年後に100万ドル単位で母校に寄付することがよくあります。ちなみに、アメリカの大学総長にとって主な仕事は募金獲得です。日本の大学も学長の仕事内容を変えたら、学生の愛校心も強くなるかもしれません。

もちろん国の事情が違うので、完全にアメリカのようにする事はできません。ただし、神戸大学には、学生が施設を気軽に使えるようなシステムや、もう少し充実した施設の整備をして欲しいと思います。たとえば、六甲台と発達科学部構内にすでにプール二つがありますが、ほとんど閉鎖されています。これは工場を建てて何も生産しないのと同じ事です。弓道館や剣道館がありますが、使っている人数は少ないでしょう。ジムを一個ぐらい建てたらいかがでしょうか？きっと使用率が高いと思います。大学周辺の遊歩道と道沿いにペアで座れるベンチなどを作ったらいかがでしょうか？食事後の散歩やデートにも役立つと思います。既に大学は法人化されているし、これくらいのコストは学生にきちんと説明して学費を増やしても入手できるでしょう。コストだけを考慮するではなく、大学は将来への人材を育てる機関だということを忘れないで欲しいと思います。まず手始めに、生協食堂で17:00~19:00一人一杯限定で生ビールを売り出してみたらいかが？